

今夏開催「武器貿易条約締約国会議」の報告会



武器貿易条約締約国会議で見た課題について解説が行われた報告会
(京都市下京区)

東京で今夏開催された武器貿易条約(AATT)締約国会議の市民向け報告会がこのほど、京都市下京区であった。明治大国際武器移転史研究所の榎本珠良・専門研究員が、「参加者が公平に選ばれていない」など、会議で見た課題を解説した。

AATTは、通常兵器の輸出に国連総会で採択された。締入や仲介取引といった移転を 約国は現在、日本を含む97カ規制する条約で、2013年 国・地域に上るが、東・東南

「参加者選定の公平性課題」



9月26日
水曜日



発行所 〒604-8577
京都市中京区烏丸通夷川上ル

下京でNGO開催 日本の役割に期待

アジアの国はほとんど批准していない。4回目の会議は8月20〜24日に初めて日本で開かれ、批准を目指すアジアの非政府組織(NGO)などが注目していた。

今月22日に下京区であった市民向け報告会は、同区に拠点を置く国際NGOテラ・ルネッサンスが主催した。

報告会で榎本研究員は主に、途上国の政府やNGO関係者が会議と準備会合に参加するための資金を、締約国が補助する「スポンサーシップ制度の問題点について報告。欧米のNGOが主導する特定の組織に資金が多く渡った結果、「参加者が不公平に選ばれ、批准を目指す東・東南アジアの国のNGO関係者の参加が非常に少なかった」と指摘した。

会議でもこの問題に焦点が当てられ、「参加者選定の公平性や透明性を確保するための合意がなされた」と説明。「日本は最大の資金拠出国。発言力を生かし、問題解決に向けた役割を期待したい」と締めくくった。

(大西幹子)